

会 議 録	
会 議 名	令和 8 年度第 1 回真庭市子ども・子育て会議
日 時	令和 8 年 6 月 25 日（木） 1 9 : 0 0 ~ 2 0 : 3 0
場 所	真庭市役所 本庁舎 3 階会議室
出 席 者	<出席委員> 15 名 岩満委員、木田委員、谷口委員、庄司委員、中川委員、 二若委員、藤木委員、山本委員、池田委員、行本委員、 宮田委員、佐藤委員、田中委員、樋口委員、桑田委員 <欠席委員> 0 名 <事務局> 6 名 健康福祉部 神庭次長兼こども家庭センター長 健康福祉部子育て支援課 渡辺課長 健康福祉部子育て支援課 釜本こどもはぐくみ担当課長 健康福祉部子育て支援課 二宗課長補佐 健康福祉部子育て支援課 曲係長 健康福祉部子育て支援課 水島主任
傍 聴 者 数	<傍聴者> 1 名
次 第	1 開 会 2 挨 拶 3 委員委嘱・委員自己紹介 4 子ども・子育て会議について 5 副会長の選出について 6 報告・意見交換 （1）「こどもはぐくみ応援プロジェクト 2 0 2 5」について （2）「こどもはぐくみ応援プロジェクト 2 0 2 6」について （3）真庭市子ども・子育て支援施設整備計画について

	(4) 保育園・こども園利用状況について (5) 放課後児童クラブ実施状況について (6) 久世第二こども園(仮称)整備工事の進捗状況について (7) こどもの放課後居場所確保事業 (天津小学校区放課後児童クラブ) について
	7 その他
	8 閉 会

1 開 会

(事務局 釜本課長)

本日はご多用のところ、真庭市子ども・子育て会議にご出席いただき誠にありがとうございます。本日は令和8年度の第1回目の会議にあたりまして、新たにご就任いただいた委員の方々をお迎えし、新体制でのスタートとなります。

子ども・子育て会議条例第5条第2項に基づき、委員15名中全員のご出席をいただいておりますので、会議を開催いたします。こどもたちが健やかに成長できる地域づくりのため、有意義な会議となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。まず初めに、岩満会長よりご挨拶をお願いします。

2 挨 拶

(岩満会長)

自身も会長として2年目。委員の方々にはご協力をお願いします。最近テレビ番組で真庭市が先進的な自治体として紹介されていました。こども・子育ては地域の重要課題であり、今年度も幅広い意見を出していただけたらと思います。

3. 委員委嘱・委員自己紹介

～ 委嘱状交付・各委員、事務局自己紹介 ～

4. 子ども・子育て会議について

～説明(事務局 二宗課長補佐) 資料説明 【資料2・3・4】～

5. 副会長の選出について

(岩満会長)

現在、子ども・子育て会議の副会長が不在となっています。真庭市子ども・子育て会議条例第4条に基づき、副会長は委員の互選により選出することになっていますが、事務

局案はありますか。

（事務局 釜本課長）

事務局案といたしましては、これまでのご経験やご見識を踏まえ、庄司憲子委員を副会長にご推薦申し上げたいと考えております。委員の皆様、いかがでしょうか。

－委員全員賛成－

（岩満会長）

ありがとうございます。それでは、庄司副会長、ご挨拶をお願いします。

（庄司副会長）

子ども・子育て会議発足当初から参加しています。市の取り組みの甲斐あって「こどもまんなか」の考え方が真庭市に浸透してきたことを実感しています。微力ながら協力ができたらと思います。

6 報告・意見交換

（１）「こどもはぐくみ応援プロジェクト２０２５」について

（２）「こどもはぐくみ応援プロジェクト２０２６」について

～説明（事務局 二宗課長補佐） 資料説明 【資料５・６】～

（岩満会長）

それぞれの立場から特に気になることがあれば、意見を順番にお願いします。

（木田委員）

若い世代を対象とした事業が充実していると感じた。昨年自身が意見を伝えた夏の居場所づくりについて拡充された。意見を取り入れてくれたことがありがたい。

（谷口委員）

少子化対策を考えるなら、結婚支援の段階から取り組む必要があると感じた。

（中川委員）

中学生・高校生の保護者は、こどもの成長と共に学校との接点も減り、相談先が少ないことを感じている。成長後も継続して相談できる場が必要。

（二若委員）

結婚や出産につながらなければ出生数増加には結び付かない。市の取り組みは評価す

るが、少子化の現状を見ると空回りしているようにも感じる。

（藤木委員）

愛育委員では、中学校で命の大切さを学ぶ体験学習や乳幼児との交流活動をしている。子育ての喜びを知る機会は大変であり、地域とのつながりを通じて子どもの地域愛を育てることがやがて地域に帰りたいと思えることにつながっていくと思う。

（山本委員）

昨年は7地区で実施した屋内巡回遊び場が今年は4地区に減ることを残念に感じる。交通手段のない家庭もあり、利用者数が少なくても継続して全地域で実施してほしい。

（事務局：釜本課長）

昨年度の利用状況やニーズ調査を踏まえ、より広いスペースで体を動かせる遊び場を確保するため4地区での実施と決定した。

（山本委員）

こどもはぐくみ応援事業では「居場所を増やす・拡充する」とあるので残念。

（池田委員）

少子化には経済的な理由が大きく影響していると実感している。里親や養子縁組の家庭への支援体制についても目を向けるべきではないか。里子を受け入れることについて開かれた自治体となればこどもも増えていくのではないかと考えている。

（行本委員）

SNS「こどもあ」の情報発信が日々の子育てに非常に役立っている。休日の園庭開放も良い取り組みであり実際に行くととてもよかった。まだ知らない人も多いのでもっと周知してほしい。

（宮田委員）

若者世代の立場から、結婚や出産はハードルが高く不安がある。ライフステージを考えたときに結婚とキャリアを比較してキャリアを選択する友人も多い。真庭市で将来どのような働き方や生活ができるのか情報が見えにくく、進学で市外へ出た若者が戻るイメージを持ちにくい。結婚前の世代への情報提供や支援の必要性を感じている。

（佐藤委員）

真庭市は共働き世代への支援に力を入れていると感じる一方で、結婚したくてもでき

ない若者も多い。結婚につながる機会づくりが重要だと思う。

（田中委員）

こどもの権利条約を守り、こどもの命や権利が大人と同等に尊重される社会を目指す必要がある。大人の忙しさや働き方で大人にゆとりがないことそのものがこどもに影響しており、社会全体で考える必要がある。

（樋口委員）

これまで個別に行われていた施策をこどもはぐくみ応援プロジェクトとしてパッケージ化することでみなさんの目にふれていろいろと意見をいただけるようになってきた。これからはこども目線に立って施策を考えることが重要。今後のこどもの権利条例づくりを通じて意識を変えていくことを考えていってほしい。

（桑田委員）

保育現場では保護者の負担軽減につながる取り組みが進んでいる一方で、こどもたちへの影響も考える必要があると思っている。親子や地域との交流機会を増やし、地域全体で子育てできる真庭市になってほしい。

（庄司委員）

スマートフォンや AI の普及によって保護者の相談行動が変化していると感じている。その一方で、孤立した保護者も増えており、地域の人と気軽につながれる環境づくりが必要だと思う。

（岩満会長）

委員から多くの意見が出た。今までの話を受けて意見や質問があればお願いします。

（田中委員）

宮田委員の意見について、若い世代の立場から「こんな支援や環境があったらよいと思うこと」があれば教えてほしい。

（宮田委員）

高校生の頃は結婚や出産に対して明るく前向きなイメージを持っていたが、大学生になり将来を現実的に考えるようになると不安が大きくなった。真庭市では少子化が進み、将来自分のこどもが十分な人間関係を築けるのか心配になる。大学・専門学校がないため多くの若者が進学で市外へ出てしまう。真庭で働く場所や暮らし方、結婚後や子育て後のライフプランが見えにくく、進学した若者が地元へ戻るイメージを持ちにくい。岡山市や津山市は就職情報や将来像を得やすいが、真庭市はその情報が届き

にくいと感じている。「真庭でどんな仕事ができ、どんな暮らしができるのか」が分かる情報発信や若者向けの支援があればよいと思う。

（田中委員）

「若い世代が真庭でのライフステージをイメージしにくい」という表現が非常に分かりやすい。重要な視点だと思うので意見を関係部署にも共有する。

（行本委員）

ある児童クラブでこども同士のトラブルや安全面への不安があり、利用をやめる家庭が出ていると聞いている。市へ情報共有はあるのか。早急の対応をお願いしたい。

（事務局：渡辺課長）

現時点では情報が届いていないため、事実確認を行い調査したいと思います。

（池田委員）

こども自身が権利を主張したり相談したりできる仕組みがどれだけ周知されているのか。

（木田委員）

学校ではこどもの人権 SOS ミニレターや相談窓口の案内は行っているが、こどもが行政に直接意見を届ける仕組みはまだ十分ではない。

（池田委員）

このような会議もこども自身の意見も聞きながら進めることが大切ではないか。こどもが安心して相談できる大人や仕組みがあることを実感できれば、将来「真庭市はこどもを大切にするまちだ」と感じてもらえると思う。

（田中委員）

学校ごとに取り組みは異なるかもしれないが、相談先一覧をタブレットに貼ってもらうよう教育委員会から依頼をしている。現在、こども自身が学校運営に意見を出す取り組みも徐々に広がっている。

（池田委員）

真庭市の学校では校長先生と児童・生徒の距離が近く、気軽に相談できる関係が築かれていることに驚いている。少子化だからこそ実現できるこどもと教師との近い関係性は、真庭市ならではの魅力だと感じている。

(藤木委員)

子どもの権利条約を学ぶ講座を蒜山校地やサマースクール等で実施し、こどもたちが自分の思いを表現する機会づくりを行っている。蒜山校地の学生からは小さなこどもに権利条約について伝えていきたいという声が聞こえた。

(中川委員)

こどもたちが本音を話せる大人の存在が重要であり、信頼関係の中でこそ本当の思いが出てくると児童クラブの現場にいて感じている。

(3) 真庭市子ども・子育て支援施設整備計画について

(4) 保育園・こども園利用状況について

(5) 放課後児童クラブ実施状況について

(6) 久世第二こども園(仮称)整備工事の進捗状況について

(7) こどもの放課後居場所確保事業

(天津小学校区放課後児童クラブ) について

～説明(事務局 渡辺課長) 資料説明 【資料7・8・9・10・11】～

(中川委員)

携わっている児童クラブでは施設が狭く希望者全員を受け入れられない状況がある。居場所確保としてもスペースに課題がある。

(木田委員)

学童保育は放課後の安心安全な場所になっているのかということで、こどもの権利を踏まえた運営や指導員育成を行政には進めてほしい。

7. その他

久世第二こども園(仮称)の名称募集について

SNS こどもあ、真庭市公式 LINE について

8. 閉 会

(庄司副会長)

多くの重要な意見が出た有意義な会議でした。今後こどもたちのために何ができるかを皆で考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。